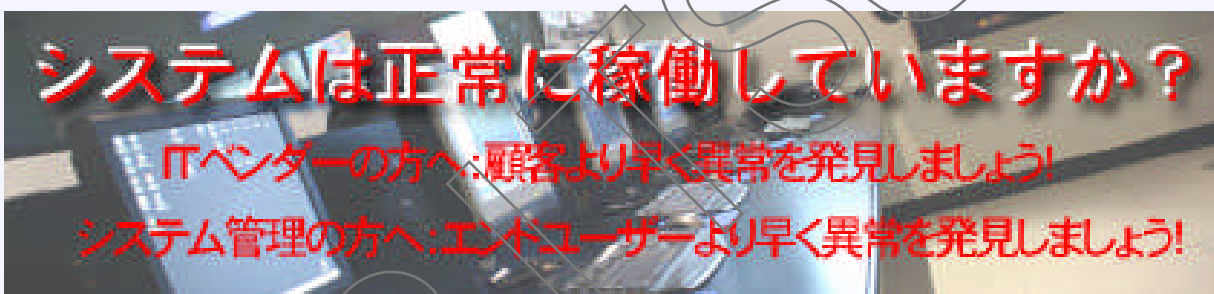


システム監視サービスのご案内



スリーIT・サポート・サービスズ

<http://www.3itss.com>

webmaster@3itss.com

1. はじめに

システム監視というと常に監視者が常駐し、個々のサーバやネットワーク機器を監視するというイメージがありますが、それらのしくみでは大きな体制と設備が必要となります。本監視サービスは電子メールを使って1つのパスでシステム全体をチェックするしくみです。しくみが理解しやすく、効率的なシステム監視が可能です。

2. 特徴

- ① 設定が簡単
お客様(監視対象)側は基本的にはスクリプトの配置だけなので導入が簡単です。
- ② メールでシステム監視
1通のメールパスでサーバ単体、DBサーバなど複数サーバ、中間ネットワークなど、関連する機器の稼働状況を総合的にチェックできます。
- ③ 社内LANのサーバも監視可能
社内LANなどインターネットから直接アクセスできないサーバでも監視が可能です。
- ④ 応用が簡単
メールの間隔と内容でチェックを行うので、メールの間隔や内容を工夫することで様々な監視ができます。(個別にカスタマイズが必要な場合があります)

3. 料金・ご利用条件

- ① 費用 お問い合わせください
- ② 契約単位および最低利用期間
 - ・3か月単位の契約
 - ・契約解除は1カ月前にお申し出ください

3. サービス内容

(1) 基本機能と3つの形態

メールサーバ、ウェブサーバ、イントラネットのサーバ、その他無人自動運転コンピュータのシステムが正常に稼動しているかを監視することができます。システムに異常があると、予め設定されたメールアドレスに警告メールを送信します。

監視対象のシステム形態に合わせ、3つの形態があります。

- ① メールサーバ監視
- ② ウェブサーバ監視
- ③ イントラネットサーバ監視

(2) 標準サービス(初期費用、月額費用に含まれるもの)

- ① 3台（3アカウント）までの監視設定
- ② 異常発生時の監視ログ（監視メール）の確認（異常発生から最大24時間以内）
- ③ 異常発生時のメール、電話連絡（異常発生から最大24時間以内）
- ④ 異常発生の原因調査支援

(3) オプションサービス(料金別途)

- ① 監視内容のカスタマイズ（規定費用内のできる場合もあるので要検討）
- ② 復旧作業
- ③ 障害発生から1時間以内の確認、連絡体制
など

4. 監視形態 (1)メールサーバ監視

【機能】

① 監視メール自動送信(センター側)

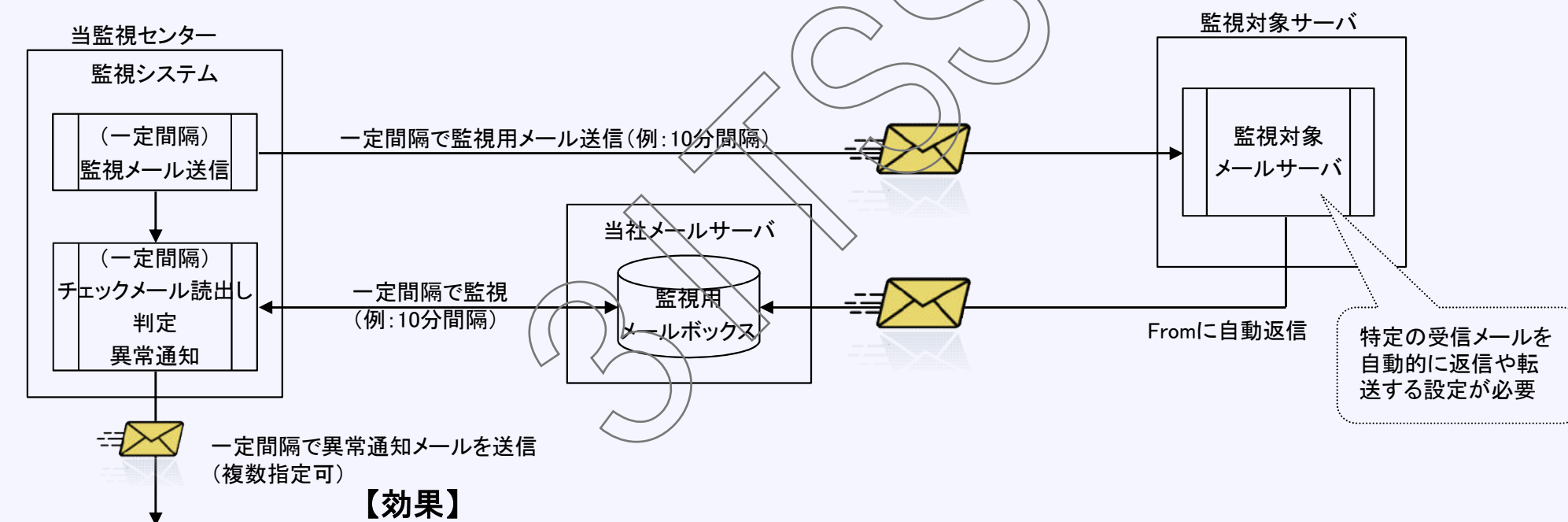
監視サーバから一定間隔(5分~10分程度)で監視メールを監視対象サーバの所定のアドレスに送信します。

② 監視メール自動返信(監視対象サーバ側)

一定間隔で送られてくる監視メールに対し自動的に返信する機能を組み込んでいただきます。

③ チェック(センター側)

監視サーバで一定間隔(10分~15分程度)で監視メールの返信メールが届いているかをチェックし、一定時間以上返信メールが確認できない場合、所定の通知先メールアドレスに警告メールを送信します。



【効果】

- ① メールを受信と送信の監視が可能です。
- ② (スパムメールなど)メールの件数が異常に多い場合や巨大な添付ファイルメールの処理によるメールの滞留や遅延が検出できます。(ポート監視ではこれらの異常は検出できません)
- ③ 複数のメールサーバを経由している場合でも、個々のサーバを監視する必要がありません。(ポート監視では関係するすべてのサーバを監視する必要があります)



警告メール送信先

4. 監視形態 (2)ウェブサーバ監視

【機能】

① 自動httpアクセス(センター側)

監視サーバから一定間隔(5分~10分程度)で監視対象サーバの監視スクリプトにhttpアクセスします。

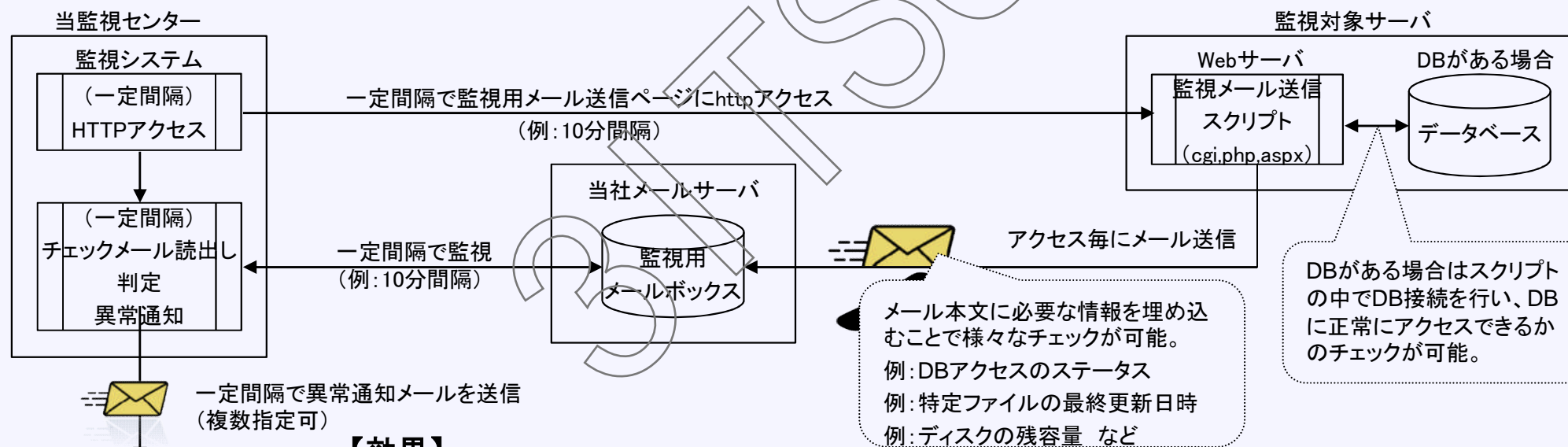
② 監視メール自動返信(監視対象サーバ側)

定監視対象のウェブサーバには、httpリクエストで実行されると監視メールを送信する簡単な監視スクリプトを提供し、配置していただきます。監視スクリプトはサーバの環境に合わせ、php、cgi、asp、aspxで提供いたします。

DBがある場合は監視スクリプトにDB接続やSQLを記述し、そのステータスを監視メールの件名や本文に埋め込むことが可能です。

③ チェック(センター側)

監視サーバで一定間隔(10分~15分程度)で監視メールが届いているかをチェックし、一定時間以上監視メールが確認できない場合、所定の通知先メールアドレスに警告メールを送信します。監視メールの件名にエラーが記録されている場合は「DBエラー」などの警告を送信することも可能です。



【効果】

- ① 外部から監視スクリプトにアクセスするので、外部の利用者と同じレベルでサーバの状態が監視できます。
- ② ウェブサーバに配置する監視スクリプトを工夫することにより、データベースサーバなど背後にあるサーバも監視することができます(個々に複数のサーバを監視する必要がありません)。
- ③ 監視メールの件名や本文を工夫することにより様々な監視が可能です。(DBステータス、ディスク容量、ファイル更新日時など)

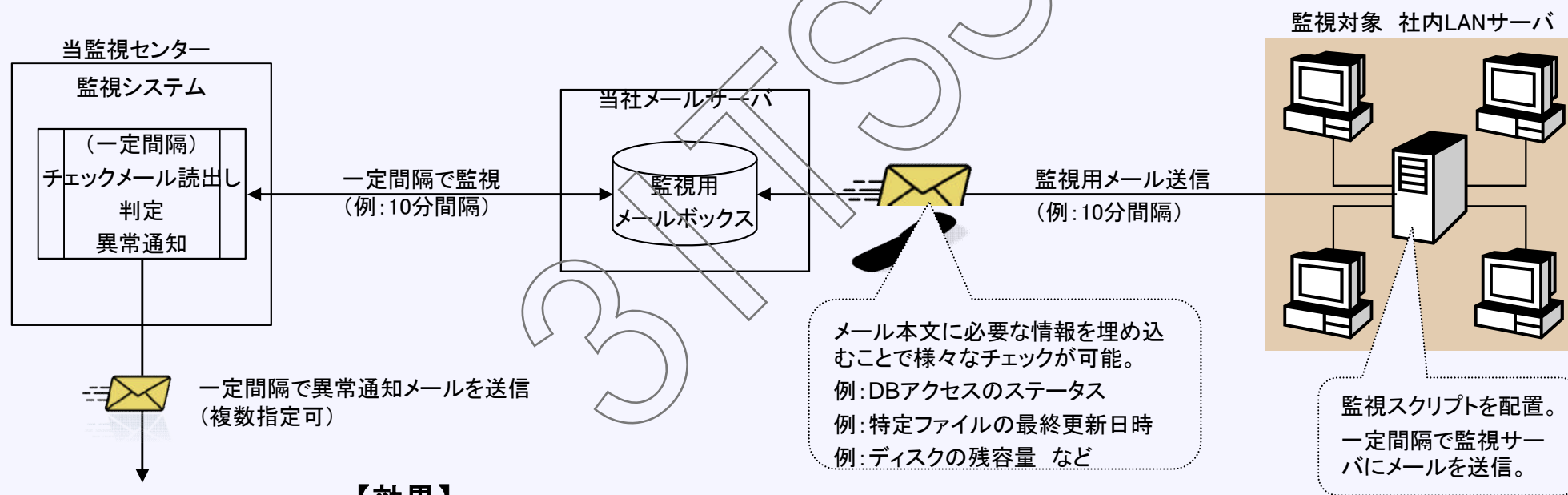


警告メール送信先

4. 監視形態 (3) イン트라ネットサーバ監視

【機能】

- ① 監視メール自動送信 (監視対象PC側)
監視対象のPCから一定間隔(5分~10分程度)で監視用メールアドレスにメールを送信します。
メール送信用の小さなスクリプトを提供し、配置していただきます。OSのタスクスケジューラで動作します。
DBがある場合は監視スクリプトにDB接続やSQLを記述し、そのステータスを監視メールの件名や本文に埋め込むことが可能です。
- ② チェック (センター側)
監視サーバで一定間隔10分~15分程度)で監視用メールにメールが届いてるかをチェックし、一定時間以上監視メールがないと所定の通知先メールアドレスに警告メールを送信します。監視メールの件名にエラーが記録されている場合は「DBエラー」などの警告を送信することも可能です。



【効果】

- ① 外部からアクセスできない社内LANのサーバやPCの監視が可能です。
- ② サーバに配置する監視スクリプトを工夫することにより、データベースサーバなど背後にあるサーバも監視することができます(個々に複数のサーバを監視する必要がありません)。
- ③ 監視メールの件名や本文を工夫することにより様々な監視が可能です。(DBステータス、ディスク容量、ファイル更新日時など)



警告メール送信先

5. 主な導入実績

① 2部上場企業	ノーツメールシステム監視	約12年（継続中）
② ベンチャー企業	企業情報サービス	約10年
③ 新興市場上場会社	社内LAN監視	約2年（継続中）
④ ベンチャー企業	プレスリリース管理システム	約6ヶ月（継続中）
⑤ 自治体	デジタルサイネージ	2か月（継続中）
⑥ 自治体	メールシステム監視	2か月（継続中）

など （2010年5月時点）

3ITSS